

平成 29 年度

# 山口市青少年交流訪問団訪問記

平成 29 年 8 月 2 日（水）～8 月 6 日（日）

中国・山東省濟南市



山口市

# はじめに

---

济南市は中国・山東省の省都で、交通の要衝として発展し、政治・経済・文化の中心となるまちです。1982年、山口県と山東省が友好提携をしたことから同省の省都济南市と県都山口市が、1985年に友好都市となりました。それ以来、長い年月にわたって、子どもから大人まで、たくさんの皆さん的手によって、教育をはじめ、文化、経済、環境など、色々な分野でお互いに交流を深めています。

このような中、近年は、青少年のコミュニケーション能力を育み、国際感覚豊かなひとつづくりを推進していくことを目的に、毎年1回、小・中学生を団員とする青少年交流訪問団の派遣を行っています。

今年度は、小学生1名と中学生3名からなる訪問団が、4泊5日の日程で济南市を訪れました。ロボットの組み立てやプログラミング、子ども達との双六・剣玉・将棋といった日本の遊び、山口市の学校の様子のビデオ紹介を通して、青少年宮の子ども達との交流を深めたほか、数多くの歴史的文物を収蔵・展示している山東博物館や济南市の南120kmに位置する小さな町、「孔子のふるさと」曲阜市を訪問し、「孔廟・孔府・孔林」を見学するなど、素晴らしい歴史遺産に触れることもできました。

また、期間中は、同年代の子どもがいる一般家庭にホームステイし、現代中国の生活を肌で感じてきました。生活習慣の違いや、言葉の壁に戸惑ったこと也有ったかも知れません。そんなとき、ホストファミリーの優しさや温かさに、国境を越えた人と人との心の交わりを感じることができたことだと思います。

訪問団の皆さんには、今回の貴重な体験を生かし、多様な文化を持つ人々と積極的にコミュニケーションを広げていただくとともに、世界に目を向け、国際的な舞台で活躍されることを心から願っています。

この訪問記は、参加した子ども達自身の目で見たことや感じたこと、訪問中の成果などをより多くの市民の皆様にお伝えするために作成したものです。子ども達の柔軟な感性で捉えた中国・济南市の今を御覧いただくとともに、地域における国際化推進の一助となることを期待しています。



最後に、本市の訪問団を温かく迎えてくださいました济南市外事僕務弁公室、济南市青少年宮の皆様、また、団員を快く送り出してくださいました御家族の皆様、所属する学校の先生方、そして派遣事業にお力添えをいただきましたすべての皆様にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成30年2月

山口市長 渡辺 純忠

# 目次

---

|                   |       |
|-------------------|-------|
| はじめに（市長あいさつ）      | 1     |
| 目次                | 2     |
| 日程                | 3     |
| 訪問団団員名簿           | 4     |
| 研修会の日程とそのようす      | 5     |
| 出発のあいさつ           |       |
| 田中 凜・八鍬 海         | 6     |
| 栗田直英・佐々木大壱        | 7     |
| リレー日記             |       |
| 8月2日（水）田中         | 8     |
| 8月3日（木）八鍬         | 8     |
| 8月4日（金）佐々木        | 9     |
| 8月5日（土）栗田         | 9     |
| 8月6日（日）田中         | 9     |
| 活動のようす            |       |
| ①济南市青少年宮で交流       | 10    |
| ②济南市青少年宮でロボット交流   | 11    |
| ③山東博物館の見学         | 12    |
| ④山東博物館孔子堂で書道体験    | 13    |
| ⑤趵突泉と大明湖          | 14    |
| ⑥济南市青少年宮で工作       | 15    |
| ⑦曲阜にて、孔子に関わる史跡を見学 | 16    |
| ⑧謝謝！ホストファミリー      | 17    |
| ⑨济南と団員たち1         | 18    |
| ⑩济南と団員たち2         | 19    |
| 訪問レポート            |       |
| 田中 凜              | 20・21 |
| 八鍬 海              | 22・23 |
| 栗田直英              | 24・25 |
| 佐々木大壱             | 26・27 |
| 団員訪問記             |       |
| 田中 凜              | 28    |
| 八鍬 海              | 29    |
| 栗田直英              | 30    |
| 佐々木大壱             | 31    |
| 松田伸宏（団長）          | 32    |
| 丸本華代（通訳）          | 33    |
| 時乘鈴代（市国際交流室長）     | 34    |
| お世話になったみなさん、編集後記  | 35・36 |

# 日程

## 8月2日（水）

新山口駅→博多駅→福岡空港→韓国・仁川経由→济南空港  
济南市青少年宮へ  
ホストファミリーとの対面  
→ホームステイへ

济南市青少年宮に訪問団歓迎の表示



## 8月3日（木）

- 【午前】济南市青少年宮でロボット交流  
· 山口の学校紹介・仕舞い披露・日本の遊び交流  
· 2人一組でロボット組立てとプログラミングに挑戦
- 【午後】山東博物館見学（郭映雪さんの解説で見学）  
· 孔子堂で書道体験
- 【夕方】济南市人民政府外事僑務弁公室主催の歓迎夕食会

## 8月4日（金）

- 【午前】「泉の都」济南の名所見学  
· 大明湖・趵突泉
- 【午後】济南市青少年宮で3D作品制作体験  
· 電動カッターによる裁断・3D眼鏡作成・乗馬体験

## 8月5日（土）

- 【終日】孔子のふるさと「曲阜」へ  
· 孔府・孔廟・孔林見学

## 8月6日（日）

- 【午前】青少年宮で武術見学
- 【午後】济南空港→韓国・仁川空港→福岡空港→博多駅→新山口駅

おつかれさまでした！！



▲ 济南市青少年宮で学ぶ子どもたちと

# 訪問団団員名簿

## 子どもたち

田中 凜(たなか りん) 山口大学教育学部附属山口中学校 3年 ★ジュニアリーダー  
八鍬 海(やくわ かい) 山口大学教育学部附属山口中学校 3年 ☆副ジュニアリーダー<sup>☆</sup>  
栗田 直英(くりた なおひで) 山口大学教育学部附属山口中学校 1年  
佐々木 大壱(ささき だい) 山口市立大殿小学校 6年

## 随行職員

松田 伸宏 山口市立大殿小学校 校長  
丸本 華代 山口市総務部政策管理室  
時乘 鈴代 山口市総務課国際交流室 室長



平成 29 年 7 月 19 日（水）出発式 （山口市役所山口総合支所）

# 研修会の日程とそのようす

## 第1回研修会 6月14日（水）18:00～19:30

自己紹介、リーダー選出  
日程や旅行についての説明  
持ち物などの注意点  
健康調査  
(山口市健康増進課 高橋保健師)  
写真撮影・自己紹介文作成



## 第2回研修会 6月25日（日）9:00～11:00

場所：湯田地域交流センター



中国についてのお話

(山口県国際交流員 房倩倩さん)

- ・中国の文化・習慣について
- ・美しい中国・孔子の故郷 山東省
- ・泉の都 济南市・中国の生活・習慣
- ・簡単な中国語会話

济南市のようすについて

(山口市総務部政策管理室 丸本華代  
平成28年度济南市へ派遣)

## 第3回研修会 7月2日（日）

13:30～15:30

交流事業について

- ・中国の子どもたちと何をして  
交流するか考えよう

訪問記の作成について

中国語による自己紹介の練習

## 第4回研修会及び出発式

7月19日（水）17:30～19:15

出発式

- ・自己紹介
- ・ジュニアリーダーあいさつ 等

出発前の最終説明

交流事業について

## 事後研修会 8月20日（日）9:00～12:00

济南での5日間を振り返って…訪問記の作成



※第2回以外の場所は、すべて山口総合支所です。

# 出発のあいさつ



山口大学教育学部附属  
山口中学校

3年 田中 凜

今年度、山口市青少年交流訪問団のリーダーを務めさせていただきます、田中です。

今回、私自身、中国に行くことは初めてです。中国に行くことができる喜びがある反面、言語の壁に対して大きな不安があります。しかし、それは中国にいるホストファミリーの方々も同じだと思います。そこで私は「I go first」という目標を立てました。この目標をもとに積極的に自分が言える程度の中国語を話してみたり、貴重な体験をたくさんしていきたいと思っています。

これから訪問の中で戸惑ったり、悩んだりすることもあると思いますが、しっかり楽しんでこようと思います。応援のほどよろしくお願いします。



山口大学教育学部附属  
山口中学校

3年 八鍬 海

僕は、訪問団員として中国へ旅立つ。中国に行くにあたって、僕の心の中には楽しみと不安が入り混じっている。僕は今までに日本を出たことがなく、中国へ行くことも当然初めてなので、どんなものなのか、という不安がある。しかし、僕はこれを機会に、中国で様々なことに積極的に挑戦していきたいとも思っている。この中国訪問を通して、何か1つでも学んだことを持ち帰ってきたい。



山口大学教育学部附属  
山口中学校

1年 栗田 直英

今回、僕は、中国・山東省に行くことになって、とても不安でいっぱいです。人生初めての外国で、僕は2つの事を目標に達成したいと思います。1つ目は、ホームステイ先の方々としっかりと、自分の言葉で、コミュニケーションをとることです。英語の知識もない僕ですが、なんとか自分の言葉で関係を深めていきたいです。2つ目は、中国の家庭生活とにかく慣れる事です。日本と中国の文化の違いを知って、気づかなかつた新しい事に気づいていきたいです。最後に帰って来たら体験したことを家族に話せたらいいなと思います。



山口市立大殿小学校

6年 佐々木 大壱

僕にとっては2度目の中国、前回の中国訪問と同じように僕は、やる気に満ちています。なぜかというと、今回は前回とテーマが変わり、ロボットの交流になったからです。ロボットを作る事や工作をするのは、僕の得意なことなので、中国人との交流もふくめ、精一杯がんばりたいです。

# リレー日記

8月2日水曜日のこと

田中 凜

今日、飛行機で中国へと飛び出しました。中国に到着するとすぐにホストファミリーの方々が迎えて下さいました。最初はとても不安な気持ちでいっぱいでしたが、次第になじめました。ホストスチューデントの張鼎霖君とも早速、チェスや日本将棋、中国将棋などを一緒に楽しみました。



8月3日木曜日のこと

八鍬 海

中国訪問2日目は、中国の小学生との交流を主に行つた。午前中は济南市の青少年宮で交流を行つた。まず、訪問団から中国の小学生へ日本文化の紹介を行つた。僕の担当は映像作成であり、日本の学校を映像で紹介した。次に中国の小学生と一緒にレゴブロックによるロボットのプログラミングの体験をした。体験を通して中国の小学生と交流したこと楽しかった。2日目を振り返り、1日目にあった不安が今日1日でずいぶん減ったように感じた。



## 8月4日金曜日のこと

## 佐々木 大壱

午前中は趵突泉と大明湖を見学に行きました。夏だったので、趵突泉のアザラシは鼻から上だけだしていました。趵突泉でボートに乗る予定だったのが、40分待ちで乗れませんでした。大明湖では、趵突泉で乗れなかったかわりに、ボートに乗って湖を横断しました。

午後からは、青少年宮にもどって3D工作をしました。糸のこを使って、木の版を切り、サイを作りました。他にもメガネやチョウ、自転車も作りました。それから、青少年宮の地下にある乗馬施設で馬にのりました。とてもつかれたけどいい1日でした。



## 8月5日土曜日のこと

## 栗田 直英

青少年宮を出発して2時間半がたってようやく曲阜につきました。最初に孔廟を見学しに行き、たくさんの門や鳳凰の木のことについて教えてもらいました。あっという間に、昼ご飯の時間になりました。恐怖の羊肉がでなくて良かったです。

午後からは、孔府と孔林を見学しました。孔子の墓など、歴史を感じられて、とてもおもしろかったです。

家に帰って、ホストファミリーの方達と最後の夜を過ごしました。めいっぱい公園や家の中で遊んで、最高に楽しく、さわがしい夜でした。



## 8月6日日曜日のこと

## 田中 凜

今日は、中国に滞在する最終日でした。ホストファミリーの方々とのおわかれの際、手紙と写真をもらいました。台風の影響で仁川で宿泊する可能性がありましたが、きちんと飛んでくれました。最後、ほっとしてしまったのか、仁川空港で出発口をまちがえてしましましたが無事に乗れました。日本に帰ると、静けさがあって、少し中国が恋しくなりました。



## ①青少年宮にて、日本の文化・遊びで交流



八鍬君と田中君と栗田君とが通っている中学校のようすを動画で紹介。先生方も興味を持たれていました。



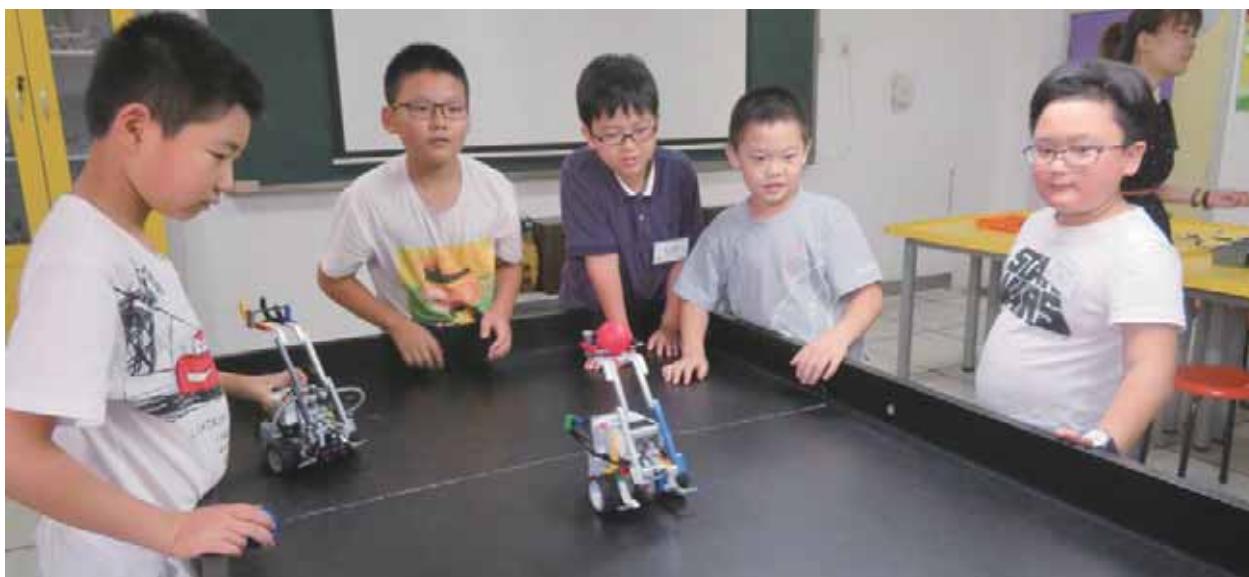
栗田君が華麗なけん玉の技を披露。  
佐々木君の手作りすごろくも大人気でした。



## ②青少年宮でロボット制作交流



青少年宮でロボット制作を学んでいる子供達と一緒に、バスケットゴールにボールを投げ入れるロボットを制作中です。



### ③山東博物館を見学



博物館の玄関を抜けると、4階まで吹き抜けになっている広くて豪華なロビーがあらわれます。天井の装飾は、収蔵品の玉璧をかたどったものです。



中国、そして山東省の悠久の歴史に  
触れ、驚きと感動がいっぱい！



## ④山東博物館内「孔子堂」での書道体験



中国の古代の服を着せていただき、孔子の弟子になつた気分で書道体験。日本の学校ではあまり習わない「隸書」に挑戦しました。



## ⑤趵突泉と大明湖

济南の代表的な名勝地、趵突泉と大明湖を散策しました。右の写真は趵突泉。手前から泉がぼごこと湧いているのが見えますか？



とても暑い日でしたが、みんな良く歩きました。大明湖では、ちょうど蓮の花が見頃を迎えていました。



## ⑥青少年宮で機械工作



1枚のベニヤ板を切り  
出して組み立てると、  
サイができました！  
使い慣れない機械を  
前に、慎重に作業を  
進めています。

3Dペンを使って色々な立体物を作りました。みんな似合っています！



## ⑦曲阜にて、孔子に関わる史跡を見学



曲阜は馬車が走っていて、济南市よりもんびりとした雰囲気です。とはいっても、歴史的建築物のスケールの大きさは、さすが中国！



左は、孔子の墓。中国式でお参りました。  
お土産を買うのも、現地の人々との貴重な交流の機会です。



## ⑧ 謝謝！ホストファミリー



今回のホストファミリーは、七月に山口市を訪れた「済南市青少年交流訪問団」の団員の家庭です。左は、秋穂荘での記念写真。

## ⑨济南と団員たち 1



見慣れない食べ物がたくさん出てきます。  
どんな味なのかなあ…



参加2回目の佐々木君は、羊の串  
もどんどん進みます。



青少年宮で学ぶ子供達の見学もさせていただきました。他にも美術やスポーツ、語学など様々なプログラムがあります。



様々な顔を持つ济南の街(撮影:佐々木大壱)



## ⑩濟南と団員たち 2



济南の空港に着いたばかりの車中にて。



狭い道路でも、渡るのは大変。

山東博物館から撮影しています。新しい高層ビルがどんどん建設されています。



出発時。緊張の面持ちの団員たち。



たくさんの貴重な体験を得て、無事新山口駅へ到着。

## 訪問レポート・田中 凜



← 中国で習字をしました。  
孔子の言葉で私がとても好きで言葉で、  
作りました。また、  
習字で着た服も着物。ヨラにカラカラ  
17歳となり着心地がよくなっています。  
また着た!!

大明湖での一枚。 →  
何の書かれてあるかまだ  
わからぬけれど  
すこしだけ  
湖はとてもきれいで  
大きかったです。



← 中国でアースティヤーでいたたの  
家族です!  
妹。服をきいてオーストラリアと一緒に  
映画を見たり、チエスや  
オセロをして楽しめました。  
オーストラリアは水をどうで  
つくらうか。アーティストの  
お話を聞きました。  
また、中国の将来の人々の事。



ホストアシスタントと出展，在濟南市少年宮！  
楽しい5日目がすぎました！  
謝謝！

中国料理のレストラン  
日本ではあまり食べられない…辛や  
アヒルを食べました！  
好吃！



日本ではあまり見られません  
車が11.12度あります！  
真好看！



中國記



饺子づくりの  
体験をしました。  
自分で作ると  
よりおいしく  
感じました。

中国料理

中国では様々な中華料理を食べました。皿に乗った赤く細長いものは「鳥の舌」です。最初は勇気がいりましたがこりこりした食感がおいしかったです。



好吃!

(おいしい)

中国のジュース  
左から コカコーラ  
中国の茶、スプライト





## 訪問レポート・栗田直英



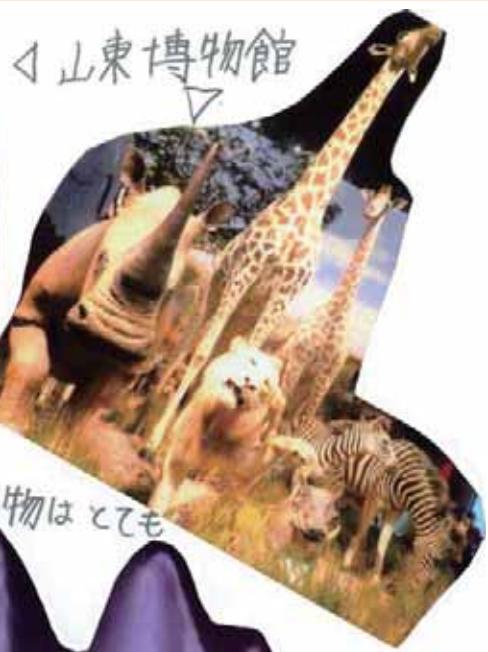
## 第二天 2日目



ロボットプログラミングと博物館を見学しました。とてもきれいなところで、動物はとてもリアルで楽しかったです。



△ 山東博物館

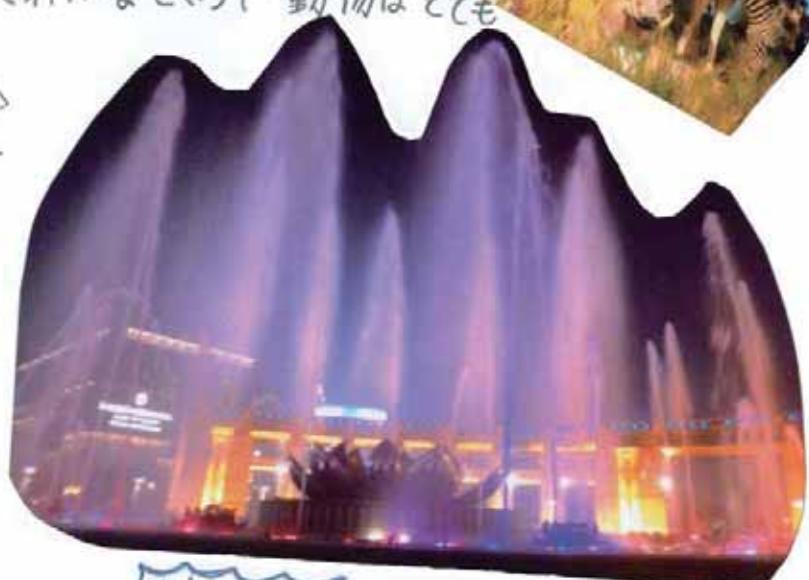


## 第三天 3日目



大明湖や趵突泉を見学しました。水の街で知られる済南市のびじゅびじょになる噴水はとても美しかったです。

泉城広場の  
噴水ショー



## 第四天 4日目



曲阜に行き、孔子に関係のある孔廟、孔府、孔林を見学しました。孔子の偉大さが分かりました。



曲阜の  
孔子像

## 第五天 5日目

最後の  
最後まで見送り  
いたしました。  
本当に

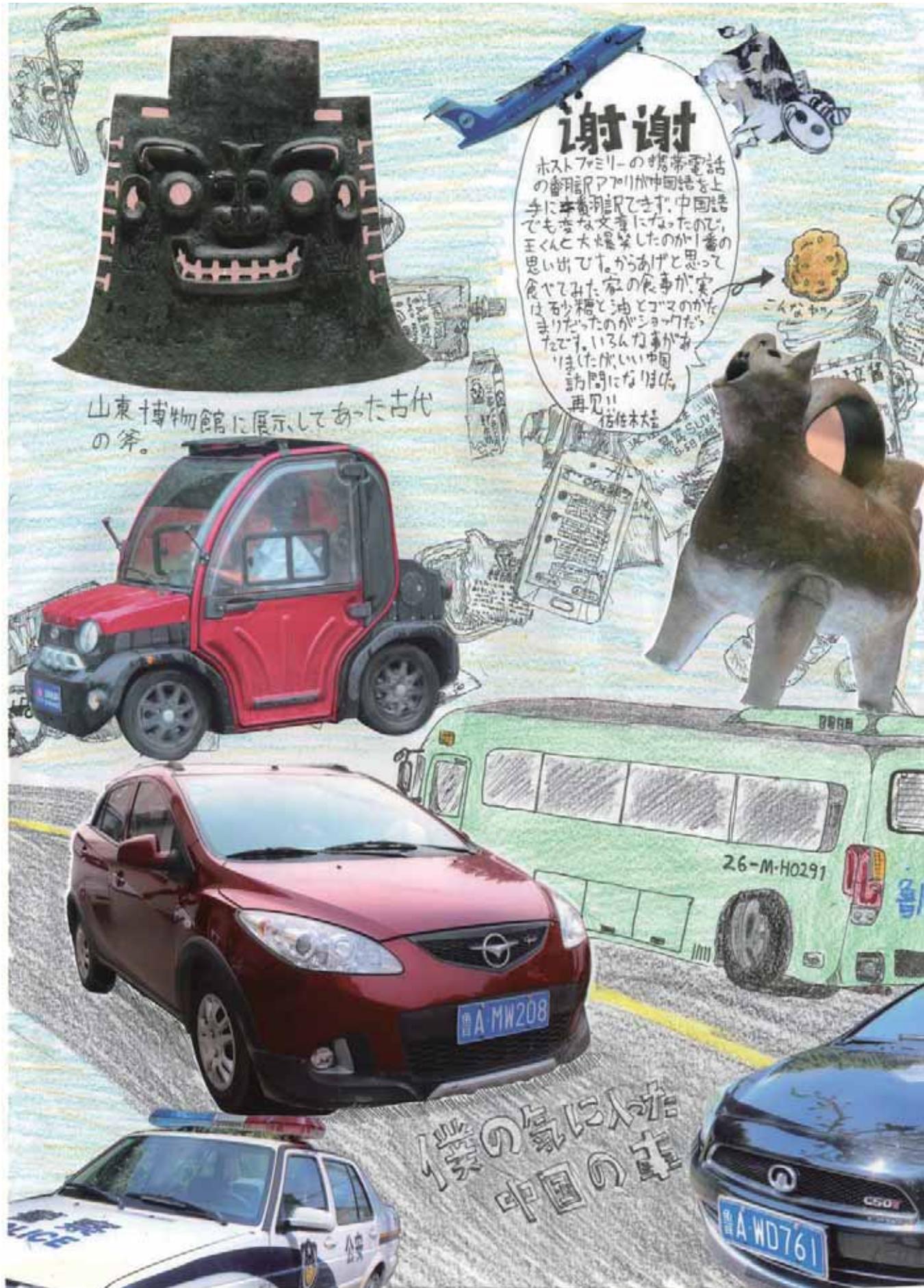
謝謝



## 訪問レポート・佐々木大壹



## ホストスチューデント 王召鯤（ワンジャオクン）



# 団員訪問記

## ★新しい価値観との出会い

山口大学教育学部附属山口中学校 3年 田中 凜



この夏、中国の山東省でホームステイを体験しました。山東省では孔子の歴史色が強く伝統文化が発展しているイメージがありました。自分がまだ目にしたことのない世界を見る事ができることに対する喜びと、約1週間、中国の方と使用言語が異なる生活を送ることに対する不安がありました。しかし、不安よりも楽しみに思う気持ちの方が強かったです。

いざ中国へ行ってみると、想像以上に都市化が進んでいて、人が多くにぎわう町でした。

私のホストファミリーはファザーとマザー、そして2人の男の子でした。ホストファミリーはみんな親切で車や電動スクーターでナイトマーケットや現地の方が日常的に行かれているスーパー・マーケットに連れて行って中国ならではの食べ物や服装を教えてくれました。

ホストスチューデントの2人はとても竹笛が上手で毎晩のように私に演奏してくれたり、チェスや中国将棋で遊んだりしてくれてとても楽しいホームステイでした。

このホームステイで道路をわたるときには車の中をわたったり、考えられないような電動スクーターだったり、夜の街がきれいだったりすること1つ1つが体験して、とてもおもしろく、新鮮に感じました。

私は、もともと人とのかかわり合いがとても好きで学校で生徒会の役員に所属しています。

その長所が今回のホームステイで生かされ、国籍が異なる人ともしっかりと会話することができました。

今回、初めての海外でとても緊張していましたが、人ととの関わりの中でおたがい第2公用語の英語を話してとても楽しかったです。

それに加えて、自分が分からぬことは積極的に質問したり、視野を広くもつておくことの大切さも学ぶことができました。

この経験をこれから的生活、勉強、将来の夢へつなげていきたいと思います。



---

## ★多文化共生の社会を目指して

山口大学教育学部附属山口中学校 3年 八鍬 海

僕にとってこの中国訪問は初めての外国だ。これまでの僕にとっての外国は本で読んだり新聞やテレビを見たりして得た情報というものしかなかった。だから、一度は中国に行って文化に触れてみようと思いこの中国訪問に参加した。

空港を出発すると、早速中国というものを感じた。車やバイクで一杯になっている道路。いたる所に建っている20階はありそうなマンション。僕の目に飛び込んでくるありとあらゆる景色が新鮮だった。また、当然ではあるが、道行く人が皆中国語で話していた。日本では日本語以外を耳にする機会は学校の英語の授業くらいであり、こうして自分では理解できない言葉を話す人達と上手くコミュニケーションをとることができるだろうかと、少し不安に感じた。

そして、その不安の代表であるものが始まった。5日間に渡るホームステイである。今までに学校の修学旅行でホームステイをしたことはあった。しかし、今回の相手には一切日本語が伝わらないため、最初はとても不安だった。そんな不安を吹き飛ばしてくれたのが、ホストファミリーの皆さんだった。言葉が通じずうろたえていた僕に、簡単な英語や中国語の翻訳アプリを使って話しかけてくれたことで、僕も積極的に何とかして話してみようという

気持ちになれたのだと思う。また、ホストスチューデントである源君のおかげでホストファミリーの中に打ち解けることができたと思う。そのきっかけが、僕と源君もレゴブロックが趣味だという共通したものがあったことだ。もちろん僕は中国語を話すことはほとんどできないし、源君も日本語を話すことができない。しかし、レゴブロックで遊ぶことを通じて、言葉はわからないが楽しさを共有できたことが嬉しかった。

中国訪問を終えて、振り返ってみて以前と自分が変わったことがある。まず1つが、中国に対する考え方・意識が変わったというところだ。中国に訪問する前までは、中国に行って何か起きたらどうしようという心配と不安でいっぱいだったが、中国では様々な人と関わっていくうちに無駄に警戒していた自分が恥ずかしく思った。2つ目に、人と話す機会が増えてきたところだ。以前は人と話すことがあまりなく、話すときに話題を作ろうともしなかつたように思える。中国訪問を通して、相手に伝えるということの大切さを、改めて学ぶことができたからだと思う。

最後に、僕はこの中国訪問を通して、中国のことによく知ることができ、また自分を変えることができた。今日、世界はグローバル化が進み、多文化共生が求められるようになった。多文化共生を実現するためには、まず他の国をちゃんと知ることが大切だと思う。僕もこの経験を生かし、多文化共生を目指したい。



# 団員訪問記

## ★国境をこえて

山口大学教育学部附属山口中学校 1年 栗田 直英

僕にとって、訪問団に参加したことで、初めての海外渡航となりました。実際、中国に行ってみると、島国である日本の世界はどれだけ小さかったのか思い知らされました。

緊張と不安でいっぱいの1日目は、青少年宮につくと、すぐにホストファミリーのお父さんが迎えに来てくれました。家につくと、やんちゃな小学2年生の男の子が元気いっぱいにとびついてきました。その後にはデパートにも連れていってもらい、楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は、バスケットゴールにボールを入れるロボットをつくったりしました。何回も何



回もズレを整えていき、立派にゴールインできるロボットをつくることができました。午後からは、山東博物館に歴史的な品を見学しました。とても神秘的で興味深かったです。夜には、中国の国際交流室の職員の方達と食事をしました。まさかというような、おどろきの料理がたくさんできました。

3日目は、大明湖や趵突泉を見学しました。大明湖は、すぐに迷子になりそうなぐらい広くて、とてもつかれました。船で湖を移動したときは、船の乗船率が定員をこえて出発したので、ちんぽつしないか不安でたまりませんでした。趵突泉では、「ポコポコッ」とたくさんの泉がわきでていて、水が本当に豊かなことを身をもって感じました。夜は、泉城広場の噴水ショーに連れていってくれました。音楽に合わせて、水が心を持っているように、きれいにシンクロしていてとてもきれいでした。しかし、びっしょりぬれてしまいました。

4日目は、曲阜に行き、孔子の偉大さに触れました。孔廟、孔府、孔林を見学しました。孔廟では、孔子の弟子たちが使っていたとされる図書館、孔府では、裁判をする場所や孔林の孔子の墓など、敬われる存在であったことを示すものがたくさんありました。ホストファミリーと過ごす最後の夜は、焼き肉、焼き魚にしてもらいました。日本とは違い、たれをつけて食べるのではなく、スパイスのような粉末につけて、食べるそうです。ホストファミリーの家の最後の夜ごはんは、最高のごはんでした。

ホストファミリーと別れる5日目。みんなで記念写真をとって、青少年宮に送ってもらいました。青少年宮で、武術の見学をしたあと、車に乗って空港に向かいました。

海に囲まれた日本を飛び離れて、国境をこえて、友達がいることは日本人としてほこらしいと思います。もっともっと外国での友達を増やしていけたらいいなと思います。



---

## ★我爱中国

山口市立大殿小学校 6年 佐々木 大壱



5年生に続いて、2回目の訪問となった济南。ぼくは初めての時にもまして興奮していました。あの活気のある、おおらかで雄大な国、中国にもう一度行ける！プログラミングを通じて新しい友達をつくったり、中国文化を体験したり、すばらしい自然の景色を見たりしたいのはもちろん、一緒に中国に行く交流団の皆さんとも仲良くなりたいと思いました。また、習っている「能」で自分を表現することができたらいいなと思っていました。

今回の一番の楽しみは、「我的朋友」、7月にホームステイで受け入れをした王くんに会えること！こんどは逆にぼくがホームステイすることになったのです！なつかしい友達に会いに行けるような、心おどる気持ちがしました。青少年宮に王くんのお父さんの運転するシルバーの FORD フォーカス 500 でみんなが迎えに来てくれた時、僕も中国の家族ができたようなうれしい気持ちでいっぱいでした。

王くんと一番の思い出は、家の近くにある泉城公園でコーラを買って二人で飲んだときです。そのとき、ぼくたちは友達だとはっきり感じました。（そのとき飲んだコーラの缶は、友情の記念として洗って日本を持って帰ろうと思ったのですが、ホストファミリーのおばあちゃんがゴミに捨ててしまい、次の日にはなくなっていました。（笑））

ぼくは、今回の訪問でますます中国のことが好きになりました。日本の伝統芸能である能を通じて、自分を表現できたことも嬉しいことでした。日本の歴史や文化を大切にすることが相手の国の歴史や文化を尊重することにつながるのだと分かりました。これからもチャンスがあれば、様々な国に行って、日本の文化を伝えながら、たくさんの方達を作りたいです。再见！



# 団員訪問記

## ★山口市青少年交流訪問で学んだこと

山口市立大殿小学校 校長 松田 伸宏

「子曰く、我を知ること莫きかな。子貢曰く、何為れぞ其れ子を知ること莫からん。

子曰く、天を怨みず、人をとがめず、下学して上達す。我れを知る者其れは天か。」

これは、今回山口青少年交流で訪問をさせていただいた、山東省曲阜出身、孔子の論語からの言葉である。

意味は、「失敗したときには不運を理由にしない、また、他人のせいにもしないで相手を尊重することが大切である。そして、自分の力で考え、それぞれの長所を見つけ、地道に努力することが大切である。」ということである。

つまり、自分の長所を知り、しっかりとそれを伸ばしていくことの重要性を述べているのである。この紀元前550年の考え方方が今の中国に生かされている。

青少年宮のシステムや教育内容などの説明を受け、ここでは一人一人の長所を生かし、それを生かすシステム作りがハード面とソフト面でしっかりと確立できている点が今回の中国訪問で一番感じたことである。

濟南市青少年宮は、地上7階、地下1階の建物に音楽・芸術・体育などの専門施設を整え、地下には馬術用の馬場もある素晴らしい施設である。そこには高度な教育を受けた専門的な教職員が指導にあたっており、それぞれの分野のスペシャリストを育てることに大きな役割を感じ取ることができた。

また、その教育水準を維持して高めていくためには、教師の教育にも力を入れていることがある。日本で言えば研修システムであるが、教師にはそれぞれにレベルがあり、そのために、教学審査を定期的に実施して常に教師の資質の向上を図っている点も、日本のシステムにはない制度であり、大変参考になった。

ウシオ電機会長の牛尾治朗氏の著書の中に、「若くて勢いのあるリーダーが長所伸長に意欲的であるのに対し、慎重な年配のリーダーは短所是正により熱心な傾向があります。また、日本企業には戦略的に短所是正を得意とするところが多く見られ、研究開発においては1000個の試作品から200個の不良品がでれば、その200個を徹底的に分析し、問題を是正していくそうです。これに対して、アメリカ企業では、よくできた試作品のほうにスポットを当て、なぜそれがよいかを追求してさらに磨きをかけていく傾向が強いようです。」

日本の教育にも同じようなことが言えるのではないだろうか。一人ひとりの個性の伸長とは言いながら、それぞれの児童の課題克服に力が注がれている。今後はさらに一人ひとりの良さをしっかりと伸ばす仕組みづくりが急務と考える。

また、濟南市は街中が活気に溢れ、人々が逞しく力強く生きており、街中が躍動感にみなぎっています。もっと山口を元気にパワーの溢れる街にしなければならない。そのためには、次世代を生きる子ども達への教育に責任と共に使命を感じた5日間であった。

最後にこのような機会を与えてくださった、山口市及び山口市教育委員会の皆様方、そして私たち7名を中心から歓迎してくださった外事弁務室・青少年宮の多くの皆様、子ども達のホームステイでお世話になった濟南市の皆様に深く感謝する次第である。



---

## ★自分で感じることと考えること

山口市総務部政策管理室 丸本 華代

昨年度は五ヶ月間にわたる濟南市への派遣期間中であったため、濟南の地で青少年交流訪問団を迎えるました。そして今回、初めて引率者の一人として全ての行程に参加させていただきました。日程の中には、今年7月に山口市を訪れた子供達との交流活動も用意されていて、再会の嬉しさと安心感とともに、こうした温かく継続的な交流が持てるのも友好都市であればこそと、その意義について再確認させられた思いでした。

さて、近年、訪日観光客の急増とこれらを巡る様々な現象や効果、問題点などが、頻繁にニュースを賑わせています。中国からの旅行客も、ビザの緩和や所得の上昇などを背景に、大幅な増加を続けています。また、以前はほとんどが団体旅行であったのが、最近は個人旅行の伸びが著しいとの情報も届いています。日本の現状や習慣、日本人の生活を肌で感じ取り、理解を深める中国の方々は確実に増えているのです。一方、日本から中国への旅行者数は、ここ数年減少傾向にあります。

このような中、中国・濟南市への交流訪問団に手を挙げた4人の子供達。うち3人は初めての海外旅行とのことで、出発前には不安や緊張も少なくなかったことでしょう。広大な道路や高層マンション群、おびただしい量の車、人・人・人、加速するネット社会、悠久の歴史と文化、エネルギー溢れる街のようすや人々の大らかさ……、小学6年生から中学3年生の男子4人の目には、どのように映ったのでしょうか。

私には、4人それぞれが、興味を持っていることやこれまでの経験、学んできたことを土台としながら、自分自身の目でしっかりと見て、今の中国・濟南を体ごと受け止めようとしているように見えました。最年少ながら参加2回目の佐々木君は、堂々たる振る舞いときらりと光る感性で、濟南市の皆さんにもすでに人気者。少し緊張が見えていた栗田君からは「ホームステイが意外と楽しい。」と人懐っこい笑顔で頼もしい言葉。そして中学3年生コンビ、兄貴的存在の田中君と八鍬君は、見たこと体験したことを感じ的に受け止めるだけでなく、自分なりに解釈し、自分の頭で考えようとしていました。

今回の訪問を通して、子供達は日本で見聞きした中国と、自身の目、耳、舌、皮膚で感じた中国とは大きく違っていたことに気づいたことだと思います。同時に、今まで当たり前のように生活していた日本を、外から客観的に見る機会にもなったように思います。

夜10時24分。定刻どおり新幹線が新山口駅に滑り込み、家路へ向かう団員たちからは、安堵とともに、自信や誇らしさの芽のような、晴れやかな表情を見てとることができました。濟南での5日間はほんのわずかな時間に過ぎませんが、未来へ向けて無限の可能性を持っている皆さんには、視点をすうっと引き上げて、羽ばたく鳥の目で世界を眺め、思い思いの場所へと降り立ってほしいと思います。

そして、私自身は、より多くの子供達、大人達へ、報道やインターネットの情報からは実感できない今の中国への关心と理解を深める機会を作る方法について、自問しています。



# 団員訪問記

## ★I Love 济南

山口市総務課国際交流室 時乗 鈴代

交流のテーマ「ロボット・プログラミング」と中国でのホームステイに挑戦する4名の団員とともに、友好都市・济南市との青少年交流訪問団の随行職員の一人として、昨年に引き続き、中国を訪問しました。

事前研修では、济南市の自然・文化・歴史などの基礎知識や、ホストファミリーとのコミュニケーションに役立つ簡単な中国語、日本とは異なる中国の生活習慣や交通事情などについての説明を行い、現地での生活にあたっての不安や戸惑いを少しでも軽くしてもらえるように努めました。さらに、济南市の子どもたちとの交流について準備を進め、将棋や双六の対戦、学校生活の映像、剣玉や仕舞いの披露など、各自の得意分野で紹介や交流をすることができました。

济南市とは相互交流をしており、7月に济南市からの訪問団をお迎えしていました。その時、大殿小学校での「ロボット・プログラミング」交流やホームステイなど本市が用意した様々なプログラムに目を輝かせて取り組んでいた济南市青少年宮の子ども達と再会することができ、とても嬉しく思いました。一方、青少年宮の職員の皆様には「ロボット・プログラミング」のほかに乗馬など素晴らしいプログラムを用意していただき、本市の団員たちにとっても貴重な体験をすることができました。

また、今回は、孔子のふるさと曲阜市へ案内していただきました。ビルが立ち並ぶ都会的な济南市の街の様子とは全く異なり、歴史を感じさせる建物が立ち並ぶ独特な佇まいの街並みに、素朴な雰囲気をまとった人々が行きかっていました。論語に「十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順がう。七十にして心の欲する所に従つて、矩を踰えず。」という言葉があり、人生を十年ごとに表現し、歳を重ねるごとにしなやかになっていくことを示しています。孔子が生まれた地を訪れたことは、これから人生を歩んでいく十代の団員たちにとっても意義深い体験になったのではないかと思っています。

宿泊したホテルの窓から、「I 济南」とビルに映し出された電光文字を毎晩目にしていましたが、成長著しい中国のエネルギーをその文字からも感じ取ることができました。この素晴らしい都市の魅力を一人でも多くの皆さんに伝えるとともに、市民訪問団の交流等を通じて、友好都市・济南市との友好関係が深化するよう努めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、今回の訪問にあたり、お世話になりました济南市外事僕務弁公室の皆さん、交流事業で御指導御案内いただいた济南市青少年宮の皆さん、団員を温かく迎え入れてくださったホストファミリーの皆さん、事前研修で中国の言葉や生活・文化などについてお話をいただいた房さん、団長として団員に御指導いただいた松田校長、通訳として団員にアドバイスいただいた丸本さん、今回の事業に参加してくださった団員とその家族の皆さん、御協力をいただいた全ての方々に御礼を申し上げます。



# 大変お世話になりました！

笑顔で団員たちを送り出してくださったご家族の皆様



济南市外事僕務弁公室の祝恒さん  
(通訳をしていただきました。)

研修でお世話になった  
山口県国際交流員の房倩倩さん



济南市青少年宮の孫衛東さん



济南市青少年宮の付憲偉主任



たくさんの青少年宮の先生方に  
お世話になりました！

济南市青少年宮の朱寧寧さん



# 大変お世話になりました！

たくさんの青少年宮の先生方にお世話になりました！



素晴らしい日本語で山東博物館を案内して  
くださいました郭映雪さん(前山口県国際交流員)



曲阜の三孔(孔廟、孔府、孔林)を  
案内してくださったガイドさん



## 編集後記

今年は、「ロボット・プログラミング交流」をテーマにした友好都市・济南市への青少年派遣事業に4名の団員が参加しました。

この訪問記の編集作業をしている中、市報「やまぐち」明治維新150年記念号(1月1日号)に、団員2名のインタビュー記事が掲載されました。平成30年は、明治維新150年にあたります。山口市は、明治維新策源地として、海外で学び日本の近代化に貢献した多くの志士たちを育んできており、世界に学ぶマインドが受け継がれていることが紹介されました。団員の皆さんにとっても、この中国訪問がきっかけとなり、何か新しいことへのチャレンジにつながるなど人生の役に立つ一歩になれば大変嬉しく思います。

この訪問記には、ホームステイを経験し中国の素晴らしさやエネルギーを感じ取って帰ってきた団員達の活動の内容が溢れています。ご覧になられた皆様にも、中国の姿を、団員達と同じ目線に立って感じ取っていただくとともに、友好都市・济南市に少しでも関心を向けていただけきっかけとなることを願っています。

(市国際交流室 時乗鈴代)

## **平成29年度 山口市青少年交流訪問団訪問記**

**平成 30 年（2018 年）2 月**

---

### **■編集・発行**

**山口市総務部総務課国際交流室**

**〒753-8650 山口市亀山町2番1号**

**TEL 083(934)2725**

**FAX 083(922)2198**

### **■印刷 有限会社重政印刷**

